

# 1. 3つのポリシー

## ディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与に関する  
基本的な方針

## カリキュラム・ポリシー

教育の実施に関する  
基本的な方針

## アドミッション・ポリシー

入学者受け入れに関する  
基本的な方針

皇學館大学の教育とはいかなるものか、それを具体的に示したものが、この「3つのポリシー」です。これを知ることによって、本学の教育方針への理解をいっそう深めていただきたいと思います。

以下、それぞれのポリシーについて簡潔に説明します。

### ディプロマ・ポリシー

各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

### カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

### アドミッション・ポリシー

大学・学部等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素※）を示すもの。

※（1）知識・技能、（2）思考力・判断力、表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

## ● 皇學館大学の3つのポリシー ●

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、「わが国民族の歴史と伝統に基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を教育培養するとともに、社会有為の人材を育成すること」（学則第1条）を教育目的とします。

本学は、各学位の教育課程を修め、次の資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

1. わが国の歴史と伝統・文化を深く理解し、それを基盤として、異なる歴史と伝統・文化を持つさまざまな世界をも尊重することができる。
2. 神道精神に基づく高い倫理観と寛容な精神を備えている。
3. 社会において必要とされる知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えている。
4. 生涯にわたり学び続ける意欲を持ち、主体的に考え、自ら積極的に行動することができる。
5. 地域・職域等社会の様々な領域において、身につけたコミュニケーション能力を用いて他者と協働し、中核的存在として貢献できる。
6. 専攻する専門領域における基礎的かつ体系的な知識・技能を身につけるとともに、それを実社会において活用することができる。

### 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するために、全学部共通科目、各学部基礎科目、各学部・学科専門科目、各種資格課程科目及びその他必要とされる体験学修の機会や課外講座等を体系的に編成します。

大学教育全体のカリキュラム・マネジメントの観点から、教育課程の体系性を学生に示すとともに、各学部・学科の教員組織が自ら自己点検するために、全学及び各学部・学科の学位授与の方針や教育目標と個々の授業科目の関係性、各授業科目間の連関及び履修の順次制を明示したカリキュラム・マップを作成しています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 全学部共通教育科目は、本学における学修に必要な基礎学力の養成、幅広い教養の修得、卒業後の社会的・職業的自立への意欲形成を図るために、以下の7区分にわたって授業科目を開設する。
  - I. 「建学の精神を理解する科目」
  - II. 「アカデミックスキルを修得する科目」
  - III. 「地域の資源や課題について学ぶ科目」
  - IV. 「キャリアをデザインする科目」
  - V. 「就業実務能力を修得する科目」
  - VI. 「外国語を修得する科目」
  - VII. 「文化、社会及び自然科学に関する基礎的な知識を理解する科目」
2. 多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにすることを目的として、少人数による初年次ゼミを開設する。
3. 英語教育は、大学入学以前に学んできた英語の4技能が個々の学生の進路に応じて「使えるようになる」ことを目標として、習熟度に基づくクラス編成により授業を実施し、外部試験等を適宜用いて学修成果の把握を行う。

4. 専門教育科目は、各学科の専門領域に関する系統的な知識と学問的方法を修得することができるように、各科目を体系的に開設する。科目の内容は、各専門分野についての知見を身につけるとともに、問題発見能力、理解力、判断力、物事に積極的に対応してゆく意欲等の社会人に必要な汎用的能力が身につくように精選されている。
5. 各学部・学科における専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化のために、4年次の卒業論文、卒業研究を必修とする。なお、伊勢志摩圏域の課題解決をテーマとしたプロジェクト研究をそれらに代えることもできる。
6. 能動的・主体的な学修姿勢、生涯にわたって学び続ける力、困難を克服する力を養成するために、正課内・正課外に「海外体験・留学」、「地域貢献活動」、「学校ボランティア活動」等、多彩な体験学修プログラムを開設する。

**【2】教育方法については、次のとおり定める。**

1. 1・2年次においては、学科ごとに全教員が分担して務める「指導教員」、3・4年次においてはゼミ指導教員が、4年間を通じて学修・生活上の助言をおこなう。
2. 大学における単位制では、1時間の授業時間に対して2時間に相当する事前・事後学習が必要とされている。この単位制度を実質化し、質の高い学修を保証するため、1年間で履修登録のできる単位数を制限する（CAP制）。学生には、各自の4年間で学修目標を明確にした計画的な履修を指導する。
3. 学生が各自の学修状況を客観的に数値で把握することができるように、GPAを算出・提示する。また、GPAは、退学勧告、教育実習・保育実習等の各種実習の履修要件や副専攻認定及び特待生の選考に使用する。
4. 国際共通語である英語については、「読むこと」「聞くこと」とともに、主体的に考えを表現することができるよう、「書くこと」「話すこと」をも重視し、それら4技能を総合的に養成する教育方法及び自習環境を整備する。また、海外語学研修の制度を充実させ、学生の実践的な英語への学修意欲を高める。
5. 知識の伝達・注入を中心とした授業方法だけでなく、学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていくアクティブ・ラーニングの組織的導入を図る。特に、少人数のチームワーク、集団討論、反転授業、などの教育方法を実践する。

**【3】評価については、次のとおり定める。**

1. 「教員が何を教えたか」よりも「学生が何を身に付けたか」を重視し、学生の学修成果を把握・評価する手法の導入を推進する。
2. 大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って評価を行う。その際、学生の学修履歴（学修ポートフォリオ）の組織的な利用をはじめとして、「パフォーマンスによる評価」、「ルーブリックによる評価」などの多様な評価方法を適切に取り入れる。
3. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく厳格な成績評価、卒業認定をおこなう。

## 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、全学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にふさわしい人材を育成するために、本学入学の段階で、①本学での学修に対する目的意識、②本学で他者と協働して主体的に学ぼうとする意欲、③そのために必要な基礎学力を備えた者を求めます。

本学での学修に必要とされる目的意識・意欲・基礎学力とは、次の4つを言います。

1. 高等学校までの教育課程で必要とされた「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体的に学習に取り組む態度」を修得していること。
2. 高等学校までの教科の履修内容のうち、特に「国語総合」と「英語」について、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけていること。
3. 自らの生まれ育った地域社会や日本、また日本を取り巻く世界の話題について、これまで学んできた知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、自らの考えを他者に説明することができること。
4. 本学で志望する学部・学科での学修や経験を、地域社会、日本国内あるいは海外で生かしたいという目的と意欲を備えていること。

これらの資質・能力を備えた者を適正に選抜するために、多様な評価方法による複数の選抜機会を設けます。

多様な評価方法による複数の選抜機会とは、次の入試種別を言います。

- ①AO入試
- ②推薦入試（一般推薦〔前期A／前期B／後期〕／資格取得者対象自己推薦／文化・芸術・社会活動型自己推薦）
- ③指定校推薦
- ④附属校推薦
- ⑤館友推薦
- ⑥一般入試（前期／中期／後期）
- ⑦センター試験利用入試（前期／中期／後期）
- ⑧外国人留学生・社会人・帰国生徒入試
- ⑨編入学・転入学・学士入学試験

## ▶ 文学部の3つのポリシー ◀

### 教育研究上の目的

本学部は、日本文化を精確に究明し、これを継承・発展させるとともに広く世界に発信し、同時に、将来を展望する見識と生涯にわたって学び続ける姿勢を有し、現代社会の諸課題にも積極的に対処しようとする自立した人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

文学部は、その教育目的を達成するために、大学全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成の方針として定めています。

1. わが国の文化について深く学び、その継承・発展に寄与する意欲を有している。
2. 言語表現を的確におこなうことができる。
3. 人間の行為について理解し、知識を得る方法と考え方を身につけて、社会において主体的に活用することができる。

### カリキュラム・ポリシー

本学部は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 文学部では、神道・国文・国史・コミュニケーションの各学科に共通する科目「文学部基礎科目」を設置する。同科目には、以下の2種類の授業科目を置く。
  - I. 日本文化を幅広く修得する科目
  - II. 論理的文章の作成能力を修得する科目
2. 各学科の専門分野に関する体系的な知識と学問的方法を修得するために、順次性と相互の関連性を明確に意識した専門的な演習や講義科目を設置する。これによって専門性を身につけるとともに、問題を発見し、解決するための汎用的能力を培う。
3. 学びの集大成としての卒業論文（卒業研究）を必修とする。卒業論文は、教員指導の下、自らテーマを主体的に設定し、学士課程において培った問題発見・問題解決能力を活かして完成させなければならない。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 論理的文章の作成能力を修得するための科目等については、アクティブラーニング（主体的学修）を積極的に取り入れる。
2. 専門分野の演習科目においては、読解力・思考力を高めるために、主に原典や一次資料を取り扱う。

### アドミッション・ポリシー

本学部は、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、学科毎に入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）を定めています。

## 神道学科の3つのポリシー

### 教育研究上の目的

日本人が守り伝えた民族固有の信仰であり日本文化の根源である神道を、祭祀学・古典研究・神道史学・神道神学・宗教学・日本文化学などの分野を通して教育・研究するとともに、将来、現代社会の諸課題に真摯に対応できる神職をはじめ、各界指導的な役割を果たす人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

神道学科では、大学・学部全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道の祭祀・古典・歴史・思想について幅広い知識を身につけて、日本の伝統的な神観念・人間観・世界観を理解し説明できる。
2. 日本の歴史・伝統・文化について理解を深め、その特質を説明できる。
3. 神社祭祀の概要を理解し、皇室・神宮・神社の祭祀について、その歴史や意義を説明できる。
4. 宗教学の基礎を身につけ、宗教史をふまえて日本の宗教事情や神道と諸宗教を比較し、的確に説明できる。

### カリキュラム・ポリシー

神道学科では、大学・学部全体の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学・日本文化学の分野ごとに科目を設置する。
2. 各分野に関する基礎的・体系的な知識を段階的に修得するため、概論的科目を1～6セメスターに配置する。
3. 関連諸文献の読解力をさらに高め、専門的研究方法と知識を身につけるため、1～6セメスターで「講義」科目と「講読」科目を学び、5～8セメスターの「演習」科目に接続する。
4. 神道学コースと日本文化コースを置き、5セメスターより、各コースの演習を選択する。神道学コースは宗教上の神道事象をより深く学び、日本文化コースは神道事象を日本文化という観点から幅広く学ぶ。
5. 修学の集大成として、各自のテーマを定めて調査・研究・実習等を行い、個別指導のもとに卒業論文を作成する。また、専門科目の学修を通して、皇室・神宮・神社に関する精確な知識を学ぶと共に、皇室・神宮・神社を敬う精神を育む。
6. 神職課程では、「祭式及び同行事作法」や「神務実習」等の所定単位を履修し、祭祀の斎行及び神社の管理・運営に必要な技能・知識を修得する。

### アドミッション・ポリシー

神道学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道や日本の伝統・文化に興味を持ち、それを学びたいと考えている。
2. 日本文化の歴史と伝統を理解し、その核心に触れたいと思っている。
3. 日本文化の伝統を継承し、後世に伝えたいと考えている。
4. 神職を志す強い信念を持っている。
5. 神道や神社に関する知識を生かし、伸ばしたいと考えている。
6. 高校時代に学んだ日本の古典や歴史・文化に関する知識を、さらに深めたいと考えている。
7. 世界の宗教・神話を学びたいと思っている。

## 国文学科の3つのポリシー

### 教育研究上の目的

国文学科では、大学の目的（学則第1条）、文学部の教育研究上の目的（同第3条の2）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

日本文化の中核を成す国語と国文学を教育・研究することにより、豊かな感受性、柔軟な思考力、的確な表現力を身につけ、日本文化の担い手としての自覚を有しつつ、現代社会の諸課題にも積極的に対処し得る自立した人間を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 国語と国文学の基礎的な知識をもち、説明することができる。
2. 文学作品及び関連する資料を読解することができる。
3. 図書館学や書道・漢文学に関する知識を有し、その技術を使うことができる。
4. 国語と国文学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを調査・考察し、論理的に表現することができる。
5. 国語と国文学及びその関連分野の学修を通じて、人間の営みと日本の文化に対する関心をもち、地域や現代社会の諸課題にも対処しようとする意欲を有している。

### カリキュラム・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 専門科目に関して1年次（1・2 Semester）を導入、2年次（3・4 Semester）を基礎、3年次（5・6 Semester）を発展、4年次（7・8 Semester）を応用と位置づけ、段階的かつ有機的な学修を展開する。
2. 国文学（古典文学・近代文学）、国語学、漢文学、書誌学、図書館学、書道の各分野に科目を設置し、幅広い学力を身につけることができるようにする。さらに、履修モデルとして「国語・国文学コース」「図書館・文化行政コース」「書道・漢文学コース」を設置する。
3. 各分野の概要を述べる概論的科目は、国語・国文学に関する基礎的かつ体系的な知識を、具体的な作品読解力の進展に応じて修得できるようにするために、1～6 Semesterに分散して配置する。
4. 2・3 Semesterに文献読解の技術を学ぶ講読科目、4・5 Semesterに研究の対象に関する知識と方法を学ぶ講義科目、5～8 Semesterに研究を実践する演習科目を段階的に設置する。
5. 大学における学修の集大成としての卒業論文作成を課す。自ら課題を発見して、それについての調査・考察を行い、論理的な文章としてまとめることができるように、指導を行う。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（「課題解決型学修」「問題解決型学修」）も取り入れた教育方法も実施する。
2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文においては「卒業論文の評価基準」（国文学科）に則って客観的に評価する。

3. 国語・書道の中学校・高等学校教員や図書館司書の資格取得に必要な科目を、適宜国文学科の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

### アドミッション・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 日本のことばと文学に対して興味をもち、それを学ぼうとする強い意欲を有している。
2. 自らの考えを日本語でわかりやすく表現することができる。
3. 国文学を学ぶ上で基本となる教科「国語」のうち、「国語総合」「現代文」「古典」の科目を履修、もしくは同等の学力を有している。



## 国史学科の3つのポリシー

### 教育研究上の目的

日本の歴史と伝統に根差した祖国愛の精神を基軸とし、史料主義・原典主義にたち、バランスのとれた中正な歴史認識を確立することによって、多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解き、将来を展望する見識ある人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

国史学科では、大学全体（学部全体）の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. わが国の歴史の流れや、伝統や文化の特質を説明することができる。
2. 歴史学の特質と現状について理解し、歴史研究の意義を伝えることができる。
3. 史料の厳密な読解、資料の分析によって歴史事実を考証し、バランスのとれた中正な歴史認識をもつことができる。
4. 多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解くことができる。
5. 史料や資料の収集・整理をし、これらを保存・活用していくことができる。

### カリキュラム・ポリシー

国史学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 古代史・中世史・近世史・近現代史の4区分に基づいた時代別の科目、および東洋史をはじめとする分野別の科目に、関連諸学問の科目も、あわせて設置する。
2. 1～4セメスターに「概説」科目、5～8セメスターに「概論」科目を配置し、歴史学に関する基礎的、かつ体系的な知識を幅広く修得し、歴史を多角的な視点から捉えることができるようにする。
3. 1～4セメスターに「講義」科目、5～8セメスターに「演習」科目を配置し、段階的に史料を読解する力を養い、5・6セメスターの「特講」科目ともあわせて、実証的な研究方法を身につけることができるようにする。
4. 6セメスターまでの勉学の集大成として、7・8セメスターに卒業論文作成を課し、みずから課題を発見し、それについての調査・研究を行い、論理的な文章としてまとめることができるよう、個別に指導を行う。
5. 高校の地理歴史・公民、中学の社会などの教員、博物館学芸員・図書館司書などの資格取得に必要な科目のうち、歴史学の分野に含まれるものを、国史学の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

### アドミッション・ポリシー

国史学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. わが国の歴史や文化に関心を持ち、それらを学ぼうとする強い意欲をもっている。
2. 史料や文化財の価値を見出し、それらを後世に伝えていきたいという意欲をもっている。
3. わが国の伝統・文化を理解し、祖国愛の精神にもとづいて、国家・社会で活躍しようとする意欲をもっている。
4. 物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えをわかりやすく表現できる。
5. 高等学校で履修した主要科目・教科について基礎的な知識をもち、特に「日本史」、または「世界史」を履修しているか、それと同等の学力をもっている。

## コミュニケーション学科の3つのポリシー

### 教育研究上の目的

言語や文化、対人関係、情報活用について教育・研究することにより、現代のグローバル社会で必要とされる実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多様なコミュニケーションの場で活躍できる、すぐれた人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. コミュニケーションの意義について言語・心理・情報の各観点から理解し、説明できる。
2. 人と円滑にコミュニケーションをはかるための、適切な日本語の表現方法を身につけている。
3. 人間や社会の多様な特性を理解し、実生活の諸問題に他者と協力して対応することができる。
4. 「心理」「情報」「英語」の分野において専門的な知識と技能を修得し、それを社会で活用することができる。

具体的には、

- ・心理分野では、心理学の知識や心理測定技能を、人間関係の形成支援、心の健康の保持増進、地域社会の魅力分析に活用することができる。
- ・情報分野では、情報収集・分析に関する知識と技術を、日本文化の伝承や地域社会との連携のために利活用することができる。
- ・英語分野では、英語を用いて自分の意思を的確に伝えることができるとともに、日本の歴史や文化を世界に発信することができる。

### カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 1, 2年次（1～4セメスター）では、コミュニケーションを言語・文化・情報・心理などの多方面から考察できる基礎力を身につけるために、概論的科目を設置する。3年次（5・6セメスター）では、社会での円滑な人間関係形成に必要な言語表現力を身につけるために、演習科目を設置する。
2. 履修モデルとして「人間関係コース」と「英語コミュニケーションコース」を設置し、さらに前者には「心理分野」と「情報分野」を設ける。
  - ・「人間関係コース」（心理分野）では、人間理解と対人関係形成に役立つ社会的技能を修得することを目的として、1・2セメスターでは、心理学や人間関係についての基礎知識を身につける。3セメスター以降では、実験、調査、検査などの実習を通じて科学的な心理測定法とデータ解析法を修得するとともに、発達、学習、臨床、人格といった生活場面と深く関連したテーマの科目を配置する。
  - ・「人間関係コース」（情報分野）では、情報の活用技能を身につけることを目的として、1・2セメスターでは、情報処理や統計学など情報を適切に取り扱うための基礎知識と技能を培う。3セメスター以降では、実社会において必要となる情報の収集・分析のための技術を修得するとともに、情報を効果的に表現・発信するプレゼンテーション能力を身につけるための科目を配置する。

- ・「英語コミュニケーションコース」では、英語の4技能の向上とグローバル社会の理解を目的として、1・2セメスターでは、英語についての基本的な運用能力の向上を図るための科目を配置する。3セメスター以降では、教育、ビジネス、観光の場で必要とされる実践的な英語を身につけるためにそれぞれの領域に即した科目を配置するとともに、日本の歴史や伝統、文化を英語で発信する能力を身につけるための科目を配置する。
- 3. 大学における学修の集大成として卒業論文（卒業研究）を課し、自ら研究テーマを設定して、個別指導のもとで研究対象の整理・分析・考察を行い、論理的な文章でまとめる。
- 4. 将来の職業に生かすことのできる資格取得のため、以下の科目群・プログラムを設置する。
  - 中高教育職員免許課程（英語）
  - 認定心理士教育プログラム
  - IT パスポート、統計検定、GIS学士対応科目

**【2】教育方法については、次のとおり定める。**

1. コミュニケーション能力を身につける科目については、ロールプレイングやディベートなどを取り入れた学修を行う。
2. 「人間関係コース」（心理分野）では、心理測定技能を修得するために、実験や検査などのグループ・ワークを取り入れる。また、研究報告書作成や研究発表のための基礎技能を修得するために、学生間で学び合うピア・ラーニングを展開する。
3. 「人間関係コース」（情報分野）では、主体的な問題解決能力や表現力を育むことを内容とするプレゼンテーション演習を活用する。
4. 「英語コミュニケーションコース」では、実践的な英語の運用・発信力をつけるために、英語による講義や課題解決型学修を取り入れる。また、海外英語研修を行う。

**【3】評価については、次のとおり定める。**

1. 大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って評価を行う。
2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく厳格な成績評価、卒業認定を行う。

## アドミッション・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. コミュニケーションや人間関係について関心を持ち、それを学ぼうとする意欲を有している。
2. 心理学や情報分析を学び、それらを社会に役立てたいという意欲を有している。
3. 他国の文化や英語に関心を持ち、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を有している。

## ▶ 教育学部・教育学科の3つのポリシー ◀

### 教育研究上の目的

日本の伝統と文化に根ざした豊かな人間性を備え、教育諸科学に係る専門的知識や技能を活用して、現代の教育課題の解決に向けて実践的に即応する能力を有する人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー

本学部は、その教育目的を達成するために、大学全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成の方針として定めています。

1. 教育に関する確かな知識やそれを伝える豊かな表現力を持ち、激しく変化していく社会の教育課題に的確に対応できる高い技術を身につける。
2. 子供の心身の成長を支え、さまざまな課題を発見し、その問題を主体的・積極的に工夫し、解決する能力を身につける。
3. 日本の歴史と伝統そして文化に立脚した広い視野を持つと同時に、それとは異なる歴史や伝統、文化を持つさまざまな世界を尊重しながら未来を創造していく教育に関心を持つ資質を身につける。
4. 教師としての使命感や責任感を持ち、多様な他者と協働しながら目標に向かい、よりよい社会の実現に寄与することができる。
5. 高い志、公正な態度、広い視野、柔軟な思考等、教師としてふさわしい人格を身につけ、子供に知育・徳育・体育の指導を適切にバランスよく行うことができる。
6. 以上の目標に加え、各コースにおいて身につける資質・能力は以下の通りである。
  - ・学校教育コースでは、小学校教育に即応した学習内容の追究と各教科の指導法を修得し、教科毎に授業が展開できるとともに、個々の発育発達に応じた対応ができる。
  - ・幼児教育コースでは、保育・教育の理論と実践的な保育技術を修得し、適切な乳幼児理解の下、感受性豊かな好奇心に富んだ子供を育てる保育ができる。
  - ・スポーツ健康科学コースでは、体育やスポーツ、健康に関する科学的理論と実践を融合させ、個々に応じた保健体育の授業や一般人を対象としたスポーツ・健康指導ができる。
  - ・特別支援教育コースでは、特別な教育的ニーズに応じた教育の理論と実践を修得し、子供たちの実情や能力に応じた適切な教育支援ができる。

### カリキュラム・ポリシー

本学部は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

1. 7区分からなる共通科目の学修を通じて、専門科目における学修に必要な基礎学力の養成、幅広い教養の修得、さらに、卒業後の社会的・職業的自立への意欲形成をめざす。
2. 専門科目については、基礎、基幹、展開、関連、実習、演習の分野別に4つのコースに必要な科目をそれぞれ設置する。
3. 1・2セメスターでは主に教育学に関する概論を、3～6セメスターでは教育学の本質や方法論、各教科の研究と実践または実技を、各コースの違いに応じて系統的に修得できるようにする。7・8セメスターではさらに、それぞれの関心に従って、専門的な学力を身につける。
4. 当該セメスターにおける各種の教育実習の経験や、また正課外の学校ボランティア等の体験学修プログラムを通して、実際の学校現場の取り組みを知り、子どもとの関係を切り結ぶことにより、将来教師になるためのモチベーションや実践力、対応力を高める。

5. 7・8セメスターでは、6セメスターまでの学修の集大成として卒業研究を課し、自らの関心に従って課題を設定し、問題を客観的に分析・解決することができるよう、ゼミを単位とした個別のおよび集団的学修の中で、卒業論文を完成させる。
6. 教育の方法として、少人数によるグループ・ワークや討論等を導入し、アクティブ・ラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学びの学修を進め、将来の教師に求められる資質・能力を開発していく。

## アドミッション・ポリシー

本学部では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。

1. 子供を愛し、1人1人の子供が持つ個性や能力及び人間性を育てていくことに喜びを感じ、それに対する強い使命感を有している。
2. 日本の歴史と伝統そして文化を尊重し、それを子供に継承していくとともに、新しい知識・技能を柔軟に取り入れ、応用して活用することができる。
3. 教育や保育に関する学修に目的意識を持ち、社会に参画し貢献しようとする強い意欲を有している。
4. 卒業後、幼児教育関係の指導者になる強い意志を有する者、および中学校・高校の保健体育教師あるいは身体運動に関する指導者になる強い意志を有する者を対象としたAO入試を実施する。

## ▶ 現代日本社会学部・現代日本社会学科の3つのポリシー ◀

### 教育研究上の目的

「政治経済」「地域社会」「社会福祉」「伝統文化」という4分野の教育を通じて、現代日本の各領域においてリーダーとして貢献できる人材を養成する。その人材像を具体的に言えば、諸課題に対して、確固とした倫理観に基づいて、主体的に、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を駆使して、創造的に対処できる幅広い職業人である。

### ディプロマ・ポリシー

本学部は、その教育目的を達成するために、大学全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成の方針として定めています。

1. 現代日本の「政治経済」「地域社会」「社会福祉」「伝統文化」の4分野について、基盤的な知識を身につけ、日本の課題を概説できる。
2. 4分野のいずれかについての専門的な知識を修得し、当該分野に関する日本の課題を論じることができる。
3. 現代日本における自らが選択した課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考えることができる。
4. 文化や武道などに関わる日本の伝統について、基本的な作法・技能を身につけている。
5. 課題解決に対して、リーダーとして貢献できるだけの倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を有し、制約された条件下においても、その能力を創造的に駆使できる。

### カリキュラム・ポリシー

本学部は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、各段階の教育において課題を「乗り越える」体験を積むことをめざして、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

1. 課題解決能力を養う基礎を固めるために、現代日本の諸課題、日本の国柄、先哲の業績を学ぶ基礎科目を置く。
2. 多様な入学者が自ら学修計画を立てて、主体的な学びを実践できるようにするために、第1学年に「初年次ゼミ」（春学期）に引き続いて「リーダーシップ・セミナー」（秋学期）を置く。
3. 4分野に通底する現代日本の課題を学ぶために基幹科目を置く。
4. 4分野のいずれかについて、当該領域および周辺・関連領域の専門知識・技術を修得するために展開科目と発展科目を置く。
5. 倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力の修得・向上を図るために実習科目を置く。
6. 基礎科目、基幹科目、展開・発展科目、実習科目での学びを、段階的に統合するために、全セメスターを通じて演習科目を置く。
7. 自ら選択した現代日本の課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考え、効果的に提示できるようにするために卒業研究演習を置く。

## アドミッション・ポリシー

本学部では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。

1. 現代日本の諸課題に対し、主体的・創造的に対応しようとする意欲を有している。
2. 国民の生活を支えるために公共機関で働きたいと考えている。
3. 民間企業で働いたり、事業を起こしたりすることを通じて、地域活性化に貢献したいと考えている。
4. 社会福祉関係の職に就いて援助を必要としている人を支援したいと考えている。
5. 日本の伝統文化を継承・普及・発展させたいと考えている。
6. 「学びを人生や社会に生かそうとする志」「生きて働く知識技能を修得しようとする意欲」「未知の状況にも対応できる能力を身につけたいとの願い」を持っている。この「志」「意欲」「願い」を特に重視する。